

平素は、弊社商品にお取り組み頂き、  
まことに、ありがとうございます。  
月間通信 5月号をお送り致しました。  
何卒、よろしくお願い致します。



## When I woke up this morning I searched for my brain.

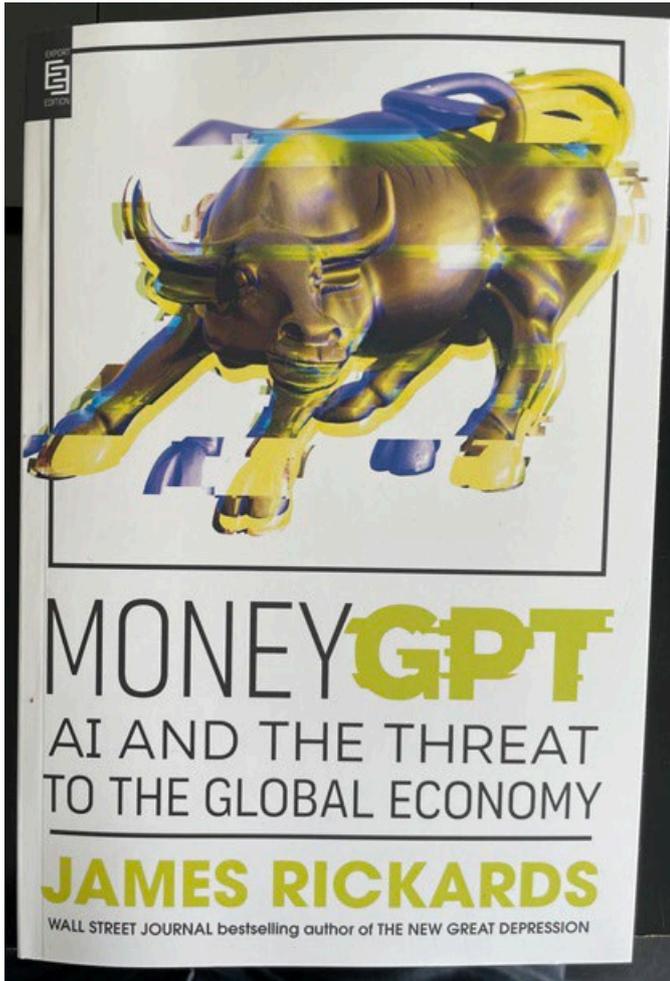
4月の18日、朝起きれば、いつになく調子が良かった。血圧を計ればいつものように200を超えていた。だけど、スッキリしていた。気分だけだったかもしれない。東京のセミナーに参加するのに、電動アシスト自転車に5分ほど乗って、高槻駅まで走った。走ったと言ってもモーターがアシストしてくれるので、30%程度の踏み込みで15km/h くらいのスピードは出る。ホームに立つと、タイミング良く2分で電車が来る。ラッキーだと思いながら待っていると、動悸が激しくなってきた。そういえば近所の内科医に行くと、『ちょっとした事で動悸が激しくなったりしませんか』と言われたが、特にそんなことは無かったので、『そういう実感はないけどなあ』と思っていたが、『ああ、これか』って思った。それで、京都駅に着いて新幹線アプリで乗る電車を予約しようと思うと4分待ちだった。ふと見ると、改札に隣接しているみどりの窓口は誰も並んでいなかったから、そこで買った。

隣が空席の席を探してもらって、ひとつ早い電車に乗ったが、また脳圧が高くなってきて、破裂しそうで眠ろうにも眠れない。前の座席に入っている Wedge も前回乗った時に読んだものと変わっていない。仕方がないので、般若心経を6回誦んじる事にした。これは、なかなかの行で集中しすぎてもダメで、集中しなくても2回3回で気がどっかに行ってしまう。心を静めて、心を静めるとは、外から入って来るエネルギーを閉ざしてしまってもダメで、細く開けてそれをコントロールしていなくては、6回は無理。結局5回目に入ったことは覚えているが、その途中で眠ってしまったようだ。気が付けば『新横浜』だって言っていた。

品川に着くと、いつも行くところがある。昔は高輪口を左に回ったところに天井屋があって、昼前に着くとここでひと息ついていた。今は無くなっていて、そのかわり右に少し行くと『ルノアール』という滞在型の珈琲店がある。京都なら『イノダ』みたいなもんだが、此处はイノダコーヒーみたいに気取ったところが無く、現実的に対応をされていて、喫煙も条件付きで可能になっている。立地が便利だけではないだろうと思うが、いつも満席に近い。高槻でタイミングが良かった分、早く着いているので、ここで、米国で心配してくれている方に、メールを一通作成した。要は、普段通り『落ち着け、落ち着け』と言っている訳。

気が付けば、丁度良い時間になっていた。そこを出て、駅まで戻ってタクシーを乗りに行くことにした。歩き始めると、いつも泊まるホテルの前にタクシーが2台停まっているのが見えた。その方向に更に進んでセミナー会場に行けるのを知っているから、気を取り直して、そのタクシーを使う事にした。そこまでは5分ほど緩やかな坂をのぼる。電動自転車で行くよりきつい。歩くのも命がけだと思えば、笑いが込み上げてきた。

さて、今日はいつもと違い、わざわざ米国から画像の James Rickards が講師として参加している。



こんな書籍がサイン入りで机に置いてあった。

下手な訳で申し訳ないが、『お金を生成する事前学習済み AI - 世界経済への脅威』って感じかな。始まるまでの間、序章を読んでみた。GPT AI がどの程度発達して来たかを、経済学部の学生と AI に『現在の経済問題を歴史視点から述べよ』って課題に対して、それぞれの回答を比べて述べてあった。便利なもので、携帯電話に入っている Google 翻訳のカメラ機能を使って読んでいた。6 ページほどギッシリとアルファベットが並んでいる文字量を 15 分ほどで読めた。GPT の翻訳は、予め学習させている参考書からデータを集めて構成しているだけだから、学生が書いたものかどうかは識別できるが、ポイントは其処ではなく、(そうか GPT とは略語で generative pre-trained transformer の頭文字) みんながこの AI を頼ると、AI に学習させる情報を偏らせることで、いくらでもミスリードできる、つまり洗脳以前だって事を書いていた。

つまり、この点が世界経済に脅威を及ぼすと言いたいのかも知れない。もう少し言うと、AI は情報を整理して、その情報から得られる課題までを整理して示してくれるという事なのだろうけど、この課題が予めセットされた偏りで示されると、課題克服の労力が、実は課題違いで純粋な解決に向かっていなくて、ますます一部の人間の恣意的な状況を助長させる事になる。しかし、本文を読まなければ、その事に対して如何に向き合うと書いているのか、本人の意向は分からない。

講演の内容は Gold の価値変遷について話しが進んで行った。確か Gold に気が付いた時は 1 オンスが 700 ドル台だったと記憶している。未だ円がドルに対して 120 - 115 円を動いていたが、ここではその為替レートについては省く。今は 3200 ドルで、間もなく 3500 ドルに到達する見通しだと言っていた。

この人物は、仲間で Gold を購入し、利ザヤを稼ごうと呼びかけているグループの、指針を示す役どころとして存在している。何故その価格が下落しないのかを世界の出来事を示し説明していた。面白かったのは、不確実な流れのリスクヘッジではないと言っていた事。水が高い処から低い処に流れるような自然現象だと捉えていると言っていた事。また、不思議と文脈ではなく塊として理解できる英語で話してくれていたが、主催者が自らのコメントも付けてその通訳してくれていて、その方は 1 オンスの金はいつの時代も 1 オンスの金でその価値は変わりなく、ただその価値を通貨で表すその通貨の価値が、変わっているだけだと言っていた。もっとも投資家は、この通貨価値が変わってくれるから投資が成り立ち、その投資が金融経済を成立させる。桜の花が貨幣価値を生む訳ではない。その花を愛でる人の行為が貨幣に繋がり経済を生むだけで、それが幸せを想像したりもするから、この世はおもしろい。

某衆議院議員が私の前に座っていたが、彼の「どこ聞いていたんだ」というような質問に、講師の彼は「Big question」だと言った。米国人もお世辞とも嫌味とも取れることを言うんだな。次の朝は、脳みそを何処かに忘れて来たかと思うほど、頭は軽かった。

有限会社アルファー 吉田清一郎